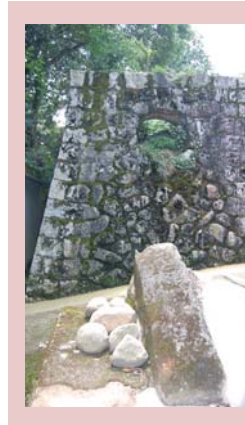




長谷発電所 本館
(写真/伊予鉄道電気(株)「五十年譜」より)

水と緑が豊かな玉川には、水源を活かした再生可能エネルギーの水力発電所(水路式)や渓谷をまたぐアーチ橋などの近代土木遺産が見られます。また、近代に整備された鈍川温泉は「伊予の三湯」の一つで、美人の湯としても知られます。

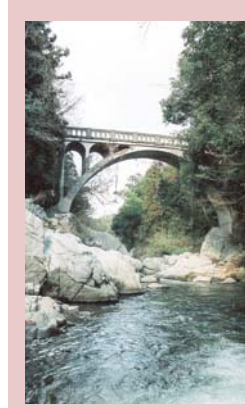
鈍川温泉郷を經由し、鈍川木地から車でアクセスできる榑原山頂上(1,042m)は、かつて雨乞い祈禱が盛んに行われました。その奈良原神社境内から発見された経塚出土品(国宝)は、玉川近代美術館に收藏されています(春と秋に約1ヶ月ずつ一般公開)。



1 長谷発電所
水槽・鉄管路跡
※三島神社境内
今治電気(株)が明治40(1907)年11月に竣工させた今治地方最初の水力発電所。最大出力180kw、有効落差約18m。鈍川発電所の誕生で廃止となる。蒼社川沿いの長谷地区三島神社境内に、水槽などの遺構が見られる。



2 長谷発電所 取水堰跡
明治40年、蒼社川と玉川(木地川)の合流地点に築かれた。水圧に耐えるため、石垣とセメントを使用。ここで取り込んだ水が、左岸の水路を伝って約1.5km下流の発電所本館へ送られた。



3 落合橋
昭和12(1937)年8月竣工。蒼社川に架かる鉄筋コンクリート造りの開腹アーチ橋で、鬼原地区と長谷地区を結ぶ。橋長27.5m、幅員2.8m。左岸の橋脚は、長谷発電所の水路遺構に建つ。これより200mほど上流が玉川との合流地点(落合)で、ここに2がある。



4 鈍川発電所 本館
愛媛水力電気(株)(阿部光之助 社長)が大正9(1920)年6月に竣工させた水力発電所。最大出力800kw(当初は515kw)、有効落差138m。現在の水車・発電機は昭和29年の設置で、四国電力(株)が管轄。かつては職員が常駐したが、現在は遠隔制御で管理。



5 鈍川発電所 取水堰
森林館より少し上流の木地川(釣堀手前)に設置されている。ここから約1.5kmの水路・隧道を伝って、本館上の水槽へと至る。水路などの土木施工は、東京の川北組が請け負った。



6 鈍川温泉郷
身近なルーツは、明治初年に旧今治藩主・久松定法が「楠窪冷泉浴場」を整備したので始まり。その後、鈍川村の有志が温泉組合をつくり、大正14(1925)年9月18日に鈍川温泉が開場する。